

2011年12月23日 2011X'mas ボウルゲームレポート by 吉田コーチ

新年おめでとうございます。今年もご声援のほど、よろしくお祈りします。

遅くなりましたが、今年の12月23日に行われたクリスマスボウルのレポートを送ります。

<試合結果>

早大学院 10 - 10 大産大附属

1Q 0 - 0

2Q 0 - 3

3Q 0 - 0

4Q 10 - 7

<試合経過>

※()内はコメントです。オフェンスは試合中ほとんど見ていないので、ディフェンス中心です。

学院のキックで試合開始。K#4 佐藤 (3年) がオンサイドキックを試みるが直接アウト・オブ・バウンズに出て失敗。学院陣 40yd から大産大附属の攻撃。

最初のプレーが始まる前に学院がタイムアウト。(最初のキックは、クリスマスボウル前の練習では90%以上の確率で成功していたので、キックで始まる時には使用することを決めていました。ディフェンスは失敗することも想定していたのであわててはいませんでした。タイムアウトも予定通りです。大産大附属は最初のプレーをその試合用のものを用意してくるので、それにアジャストするためでした。)

大産大附属の最初のプレーは、スロットの位置に入ったエース RB のレーザー。次のプレーはダイブフェイクのパス。主将の SF#21 藤原 (3年) がマークしていたため、QB スクランブルで 3yd ゲイン。3rd ダウン 5yd となるが、ワイルドキャット (ショットガンの QB の位置に RB が入る) からの QB ランでダウン更新を許し、学院陣 29yd へ。次はダイブで 9yd ゲインされる。次のプレーもダイブでダウン更新をゆるし、学院陣 15yd へ。さらに次のプレーもダイブ。これは 3yd ゲイン。パワーを 2yd ゲインで止めて、3rd ダウン 5yd。ここでダイブフェイクのカウンター・オプションのピッチ。3yd ゲインされ、4th ダウン 2yd。大産大附属はギャンブルを選択。ワイルドキャットからの QB ラン。OLB#45 小宮山 (3年) がノーゲインに止めて攻守交代。(最初のダイブの時は最も基本的なディフェンス体型で 9yd もゲインされましたが、その後のダイブは大産大附属用のもので、効果がありました。このシリーズ最後のプレーは最初にダウン更新を許したのと同じプレーでした。2度目はしっかりと止めたことに選手たちの成長を感じました。)

学院の攻撃は学院陣 7yd から。先発 QB は#6 笹木 (2年)。TB#22 藤井 (3年) のパワーで 2yd ゲイン。ワイルドキャットから QB の位置に入った藤井のランで 6yd ゲインして、3rd ダウン 2yd。TB#3 ジェームス (1年) のパワーがノーゲインでパント。パンターは#47 ケビン (3年)。

大産大附属陣 41yd から大産大附属の攻撃。ダイブを 2yd で止めた後、フェイクパスを LB#39 井上 (3年) がサクして、3rd ダウン 9yd。ロール・オプションのピッチを 3yd で止めて、パント。(このシリーズは DL#9 庭田 (3年) がちょっと足を痛めたため、1DL で守りました。その結果、大産大附属が混乱していたため、1DL も効果的だと思いました。)

学院の攻撃は学院陣 26yd から。フェイクパスから QB 笹木がスクランブルして 4yd ゲイン。TB 藤井のカウンターは 2yd ロスして、3rd ダウン 8yd。ロールアウトからのパスは失敗して、パント。

大産大附属の攻撃は大産大附属陣 30yd から。エース WR へのヒッチパスで 7yd ゲイン。カウンターからのリバースでダウン更新を許し、大産大附属陣 45yd へ。ダイブが 2yd ゲインの後、スタチュー・フェイクのパス。SF 藤原がスタチューにひっかかり、大産大附属のエース WR が完全にフリーになるが、パスが大きく、失敗。3rd ダウン 8yd で、エース WR へのパス。これを DB#27 島田 (3年) がインターセプト。(インターセプトは、エース WR だけをマン・ツー・マンして、残りの DB はゾーンで守るディフェンスでした。それがうまくいきました。島田はナイス・キャッチです。)

学院の攻撃は学院陣 19yd から。TB 藤井のカウンターが 4yd ゲインしたところで、第 2Q へ。ワイルドキャットから WR#81 諸口 (3年) へのリバースが 1yd ゲインで止められ、3rd ダウン 5yd。ここでクリスマスボウル用に用意したショットガンからのオプション (2RB のショットガン・フォーメーションで、QB 笹木から RB の位置に入った QB#1 坂梨 (1年) へハンドオフ。坂梨がオプションを行い、もう一人の RB 藤井へピッチするプレーです。)を試みるが、大産大附属のリアクションが良く、4yd ロスしてパント。

2011年12月23日 2011X'mas ボウルゲームレポート by 吉田コーチ

大産大附属陣 39yd から大産大附属の攻撃。スイングパスで 9yd ゲイン。ブラストはノーゲインで止めたが、ダイブで 2yd ゲインされてハーフラインでダウン更新。ダイブ・オプションのピッチを CB#91 宮下 (3年) が好タックルし、ノーゲイン。ショットガンからのオプションの QB キープで 4yd ゲインされ、3rd ダウン 6yd。ここでパス。プレッシャーはかかっていたが、うまくパスを決められて、学院陣 38yd でダウン更新。さらにスタチューでロングゲインを許し、学院陣 20yd でダウン更新。ダイブ・フェイクパス失敗の後、スweep・パス (ピッチを受けた TB がパスを投げるプレー) を決められて、3rd ダウン 1yd。ここで、ダイブ。ダウン更新を許したかに思えたが、大産大附属にイリーガル・フォーメーションの反則があり、3rd ダウン 6yd。今度はパス。LB ケビンがカットしたが、パス・インターフェアランスの反則を取られ、学院陣 12yd で 1st ダウン。レーザーを 1yd ロスで止めた後、ダイブ・オプションの QB キープで 5yd ゲインされ、3rd ダウン 6yd。リード・オプションの QB キープを 4yd で止めて、ボール・オン 4yd で 4th ダウン 2yd。大産大附属は FG を選択。FG を決められて、0-3 と先制を許した。(いろいろあったシリーズでした。まず、オプション・ピッチを CB 宮下が止めたことは大きなポイントで、大産大附属はこの後オプションをピッチすることができませんでした。また、大産大附属の 1 年生 RB のスピードとカットのキレには驚きました。最終的にこのシリーズを FG で抑えたのは上出来です。)

その後のキックをリターナーのジェームスが学院陣 12yd から学院陣 34yd まで戻し、学院の攻撃。TB 藤井のパワーが 1yd ロス。ワイルドキャットからのランプレーでハンドオフ・ミスして、ファンブル。学院がリカバーしたが 3rd ダウン 20yd。TB 藤井がドローで 9yd ゲインしたがダウン更新できず、パント。

大産大附属陣 21yd から大産大附属の攻撃。残り時間は 2 分 9 秒。ショットガンからの RB ランとスweep をいずれもノーゲインに止める。プレーごとにタイムアウトを取ってオフェンスに時間を残しながら、3rd ダウン 10yd。ドローで 9yd ゲインされるが、ダウン更新は許さずにパント。(いつも通り、ディフェンスでタイムアウトを使って、前半最後のオフェンスに持ってくる展開になりました。)

ハーフラインから学院の攻撃。残り時間は 59 秒。QB 笹木から WR#85 安部 (2 年) へのパスが成功し、この試合初めての 1st ダウンを獲得し、大産大附属陣 38yd へ。しかし、次のパスを大産大附属にインターセプトされ、攻守交代。

大産大附属陣 29yd から大産大附属の攻撃。1 年生 RB にドローで抜け出されて学院陣 39yd まで進まれる。スパイクの後のパスを LB#95 木本が QB サックして、3rd ダウン 10yd。ここでのパスを LB ケビンがインターセプト。このプレーで前半終了。

前半を 0-3 で終了したのは上出来です。前半を終わってのスタッツは、ダウン更新が大産大附属 9 回に対して学院は 1 回。獲得ヤードは大産大附属 153yd (ラン 120yd、パス 33yd) に対して学院は 21yd (ラン 9yd、パス 12yd)。時間は大産大附属の 16 分に対して学院 8 分、と完全に圧倒されていました。

後半は学院のリターンで試合再開。リターナー#3 ジェームス (1 年) が学院陣 18yd から学院陣 37yd まで戻し、学院の攻撃。まず、TB#22 藤井 (3 年) もパワーで 11yd ゲインし、学院陣 48yd でダウン更新。TB 藤井のスweep がノーゲイン、FB#10 向山 (3 年) のダイブが 2yd ゲインで、3rd ダウン 8yd。TB 藤井のドローは 2yd ゲインでパント。

パンター#47 ケビン (3 年) のパントが素晴らしく、大産大附属陣 2yd から大産大附属の攻撃。パワーが 4yd ゲインした後、再度のパワーを 1yd ロスで止めた。3rd ダウン 7yd から、ダイブ・オプションの QB キープを 2yd ゲインで止めて、パント。しかし、このパントでリターナー#2 寺中 (3 年) と#34 岡田 (3 年) のコミュニケーションが悪く、2 人ともキャッチしにいてしまい、交錯してファンブル。大産大附属にリカバーされて、大産大附属陣 40yd から大産大附属の攻撃。(クリスマスボウルで「どうしてもやり直したいプレーを選べ」と言われたらこのプレーでしょう。オフェンスはランでダウン更新できるようになったし、ディフェンスもノーマルなプレーはしっかり止めていたので、このシリーズに得点できていれば一気に学院のペースになったと思います)。レーザーで 7yd ゲインされたあと、ショットガンからの RB ランで学院陣 49yd でダウン更新。次のシリーズは、スロットのカウンターで 3yd ゲイン、ショットガンからの RB ランで 4yd ゲインで 3rd ダウン 3yd。ここでヒッチ・パス。CB 岡田がタックルにいくも外されて、ダウン更新を許して学院陣 37yd へ。ダイブを 2yd ゲインに止めた後、ショットガンからの RB ランのボールを弾き出し、それを CB 岡田がリカバー。ピンチを逃れた。

学院の攻撃は、学院陣 40yd から。TB 藤井のブラストがノーゲイン。QB#6 笹木 (2 年) から FB 向山へパスが成功するが、3rd ダウン 5yd。ここでのパスは失敗で、パント。

2011年12月23日 2011X'mas ボウルゲームレポート by 吉田コーチ

大産大附属の攻撃は大産大附属陣 13yd から。ドロウ 2回でダウン更新され、大産大附属陣 26yd へ。ダイブフェイクの QB キープで 12yd ゲインされ、大産大附属陣 38yd でダウン更新。ドロウを 2yd で止めたあと、リバーからパスを決められて、学院陣 36yd へ。そして、ダイブで 6yd ゲインされたところで、第 3Q 終了。

2nd ダウン 4yd からダイブ・オプションの QB キープで 5yd ゲインされ、学院陣 25yd へ。さらにショットガンからの RB ランで 16yd ゲインされ、ゴール前 9yd へ。リード・オプションの QB キープで 2yd ゲインされた後、再びリード・オプション。この時、DL#9 庭田 (3年) が QB をハード タックル。QB が落としたボールを DB 寺中がリカバーして、攻守交代。(ファンブルさせた時のディフェンスのコールは「DT のイン・チャージ」でしたが、庭田が本当に思い切り良く突っ込んでくれました。大産大附属はピッチするアサインメントでしたが、QB にピッチする暇を与えませんでした。)

学院の攻撃は学院陣 11yd から。RB 向山のレーザーは 2yd ゲイン、さらに向山のカウンターで 6yd ゲインして 3rd ダウン 2yd。ここで、学院おなじみのフェイクの入ったロールアウト・パス。QB 笹木の前が空いており、ダウン更新を狙うかと思えたが、WR#83 五十嵐 (3年) へロングパス。WR 五十嵐がキャッチした後、大産大附属の主将の CB を振り切って、81yd の TD パス。TFP のキックも K#4 佐藤 (3年) が決めて、7-3 と学院が逆転。(テレビの解説者も言っていました、このシチュエーションでロングパスを決めるのは見事としか言えません。大産大附属の DB は刻んでくると思って、足が止まっていた。)

キック後の大産大附属の攻撃は大産大附属陣 29yd から。ダブルリバーで 13yd ゲインされ、大産大附属陣 42yd へ。スイングパス失敗のあと、ダブルリバーからのパス。学院の DB が 3人ついており、パス失敗に終わったが、主将の SF#21 藤原 (3年) がパス・インターフェアランスの反則を取られ、学院陣 43yd でダウン更新。ドロウを 1yd ロスで止めた後、スタチュー・フェイクパス。エンドゾーン内で学院の DB が 3人がかりでボールを弾き出し、パス失敗。3rd ダウン 11yd からのパスを DL#36 高柳 (3年) が QB サックしたが、DB#27 島田 (3年) がオフサイドの反則を犯し、5yd 進んで 3rd ダウンのやり直し。ここで大産大附属はロングパス。カバーしていた DB 寺中が転んでしまい、大産大附属の WR が完全にフリーな状況でエンドゾーンでキャッチ。TFP のキックも成功し、7-10 と再逆転。(このシリーズは反則が痛かったです。藤原のインターフェアは試合中は「あれが反則か」と思っていました、ビデオで見るとしっかりと反則でした。島田のオフサイドは、エース WR のショートパスをマークするために浅くついたのですが、あまりにも前につきすぎました。ベンチから声をかけられなかった私のミスです。最後に転んだ寺中ですが、藤原がケガで欠場している間、DB を引っ張ってきました。この試合ではパント・リターンに続いて 2度目の大きなミスですが、「寺中のミスで点を取られたのならしょうがない」という雰囲気があり、ベンチに悲壮感は全くありませんでした。)

その後の学院の攻撃は、学院陣 35yd から。TB 藤井がブラストで抜け出し、12yd ゲインして学院陣 47yd へ。さらに TB 藤井のカウンターで 6yd、TB ジェームスのスイープで 3yd ゲインし、3rd ダウン、1yd。ここは TB 藤井がブラストで突破して、大産大附属陣 41yd でダウン更新。ロールアウトからの QB 笹木のキープで 6yd ゲイン。パス 失敗のあと、TB 藤井へのスクリーンで 3yd ゲインして、4th ダウン 1yd。当然、学院はギャンプルを選択。TB 藤井のブラストは止められたかには見えたが、大産大附属にフェイスマスクの反則。大産大附属陣 17yd でダウン更新。QB 笹木のスクランブルで 3yd ゲイン。次はスローバックのパス。エンドゾーンで WR#40 伊達 (3年) がフリーになり、ボールに指が届いたもののキャッチできずに失敗、3rd ダウン 7yd。FB 向山にショートパスを決めてダウン更新を目指すが、大産大附属の最優秀バック賞に選ばれた CB がナイスタックルし、4th ダウン 3yd でボール・オン 10yd。残り時間は、2分 30秒。選択を迷うところだが、学院は FG を選択。K 佐藤が見事に決めて、10-10 の同点。(この選択は正解だと思います。タイムアウトは 3回残っており、FG が失敗しても、ランで展開してくる大産大附属の攻撃を止めて、もう一度オフェンスに回せたと思います。)

残り時間、2分 27秒で学院のキック。これを大産大附属陣 46yd までリターンされた。(このキック・カバーを一番、後悔しています。その前のキック・カバーは良かったので同じものを使用してしまいましたが、大産大附属にうまく対応されてしまいました。他のカバーを使い、もう少し奥で止めていたら大産大附属にもっとプレッシャーをかけられたのですが。)

QB ドロウで 14yd ゲインし、学院陣 42yd でダウン更新。残り時間 2分 10秒。ショットガンからの QB ランで 2yd ゲイン。QB ドロウで 5yd ゲインして 3rd ダウン 3yd。再度の QB ドロウを 1yd ゲインで止めて、4th ダウン 2yd。ここで、学院がタイムアウト、残り時間 40秒。大産大附属は、2年生の QB を入れてダイ

2011年12月23日 2011X'mas ボウルゲームレポート by 吉田コーチ

ブ・オプションのQBキープ。全員が集まり、ダウン更新を許さず、攻守交代。(4thダウンのタイムアウトは勝つ可能性を残したものです。次のプレーを止めても時間が残らなければ、学院のオフェンスにチャンスはありません。ただ、選手がタイムアウトのシグナルに気づくのが遅れて、10秒ほど時間が流れたのは残念でした。)

学院の攻撃は学院陣34ydから。残り時間35秒、タイムアウト残り2回。パス失敗で残り28秒。次はWR伊達へのパス。一旦、手に入ったが、大産大附属のDBにボールを弾き出されて、失敗。残り21秒。学院にディレー・オブ・ゲームの反則があり、5yd罰退。WR#81 諸口へロングパスを投げるが失敗。4thダウン15yd、ボール・オン学院陣29yd、残り時間13秒でパント。(2ndダウンの伊達へのパスは残念でした。決まっていれば、大産大附属陣42ydに入っており、FGを狙えるシチュエーションになっていました。)

残り3秒で、大産大附属陣40ydから大産大附属の攻撃。最後はエースRBのドロウ。10ydほどゲインされたところで止めて、試合終了。

この結果、学院は2年連続3回目の優勝、大産大附属は3年ぶり8回目の優勝ということになった。最優秀ラインマン賞はLBケビンが受賞した。ちなみに最優秀バック賞は大産大附属のエースWR#7西村が受賞した。

<コメント>

試合終了直後は「引き分けで優勝」という結果になんともスッキリしない気分でしたが、ラグビーの高校選手権(東福岡が3連覇したが、昨年は21-21で同点優勝)や大学選手権(同点で試合終了直前に帝京大がPGで勝利)、サッカーの高校選手権(同点で延長に入り、延長後半に市立船橋が決勝点)をテレビで見ていると、負けなかったことは「非常に良かった」と思えました。なんとと言われても3回目の全国優勝を成し遂げたことは素晴らしいことで、2012年に全国で唯一3連覇を出来る可能性を持ったチームにして、卒業していく3年生は本当に頑張ったと思います。

試合はやはり大産大附属の能力の高さに支配されてしまいました。特にオフェンスは、大産大附属のパワーに加えてスピードに対応することが難しい状況でした。しかし、数少ないチャンスをモノにし、後半は疲れの見た大産大附属のフロントをコントロールするなど、1試合を通じての勝負は見事でした。ディフェンスもオープンにおける1対1の局面では厳しいものがありましたが、ダイブやパワーなどのこれまでの対戦でやられてきたベーシックなプレーを止めることができ、粘り強く戦ったと思います。

キッキングも最後の「同点にするFG」という最も緊張する場面で、スナッパーもホルダーもキッカーも見事に自分の仕事をやってくれました。これ全ては日々の練習の成果だと思います。

学院のフットボールは間違いなく進歩しています。これは大産大附属との対戦が証明しています。大産大附属は身体能力の非常に優れた上にフットボールのレベルの高いチームです。特にクリスマスボウルに出場する時は選手も揃っており、非常に強力です。そのチームに対して、前回は接戦でしたけれども10回やって1度できるかどうかという試合でした。しかし、今回の試合は、スタッツでは大差がついていますが、試合内容は五分五分で学院に大きなミスがなければどうなったかわからない、という試合でした。つまり、全く対等の戦いでした。このことは「普通の高校生でも日本一を目指せる」という証明です。3年間地道なトレーニングを積み、フットボールの基礎を徹底して身につけ、最後に頭をフル活動させて戦えば、生まれつきの身体能力の差を埋めることができます。こんなスポーツはフットボール、特に高校フットボールしかないでしょう。2012年もまた、面白い試合ができるように頑張りたいと思いますので、今年もまた、ご声援のほどよろしくお願いたします。